

今日のキーワード 「FOMC議事録」と金融政策（米国）

「米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録」は、FOMCから3週間後に公表されます。FOMC終了直後に公表される声明文で景気や物価、金融政策に関する判断が明らかにされますが、議事録はその判断に至るまでの議論が記録され、より詳細な情報を得ることができます。3月15日～16日に開催されたFOMCについて、4月6日に議事録が公表されました。

ポイント1

国内景気の現状に対する評価はやや改善 インフレは、目標の2%に向かって上昇する見通し

- 今回のFOMCでは、米国景気は緩やかなペースで拡大したと述べました。生産や支出を示す指標が想定を下回ったとする前回の評価に比べ、前向きになったといえます。
- 一方、インフレについては、ドル高や原油価格の値下がりなどもあり、目標値である+2%を下回った状態が続いているものの、これらの一時的な要因が消滅すれば、目標に向かって上昇するとされました。

ポイント2

海外経済、金融市場に対して強い警戒感 早過ぎる利上げが引き起こす経済的なコストは大きい

- 国内景気の見通しについては、緩やかな拡大が持続するとされました。しかし、海外の景気に対する警戒感は引き続き強く、金融市場の情勢とともに、国内経済の下振れリスクとなりうる可能性を指摘しています。
- 足元の政策金利はわずか0.25%～0.50%にすぎません。景気が悪化しても、政策金利の引き下げ余地は小さく、さほど大きな景気刺激効果は期待できません。利上げの先送りは、「早すぎる行動によって景気が失速することは避けたい」という意向によるものと考えられます。



今後の展開

緩やかな利上げ継続の見通し

■ FOMCによる利上げ見通しは年内2回程度

FOMCメンバーによる年内の政策金利の見通しについても、前回の4回の引き上げから2回の引き上げに下方修正されました。

■ 緩やかな利上げを継続の見込み

米連邦準備制度理事会（FRB）が、利上げに対して極めて慎重なことを示すものです。今後の利上げペースは相当に緩やかなものになりそうです。

ここも チェック!

2016年4月7日 米国のISM景況感指数（2016年3月）
2016年4月4日 米国の雇用統計（2016年3月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。